

家庭教育支援チーム・リーダー養成講座③(兼)サポーター養成講座③ 実施レポート

日時：平成30年10月19日(金) 10時～15時

会場：秋田県生涯学習センター 3階 講堂

参加者：49名(うち市町村等から42名)

今回は、「地域ぐるみで取り組む家庭教育支援のために」というテーマで研修を行いました。リーダー養成講座とサポーター養成講座を合同で開催し、それぞれの地域で家庭教育支援に関わっている方々が、一堂に会する機会となりました。午後は、ワールド・カフェの手法で「地域の人材育成や活用」について話し合いました。

【午前の部】

文京学院大学保健医療技術学部看護学科教授の中村由美子氏を講師に迎え、午前の講義と午後の演習をご指導いただきました。

はじめに、中村氏は講座に参加している受講者と対話しながら、「子育てにおける地域の支え合いへの期待は高いが、実際には少子化や近所付き合いの希薄化などにより、子どもの実態・親が悩んでいる実態を我々が把握するのは困難である」ということを指摘されました。そのため、子育てにイライラしたりや子育てを楽しめなかったりする親の心理を理解する上では、「子どもの発達課題」や「ライフサイクルからみた家族の発達課題」について支援者側が知っておくことが重要であるとし、乳児期から成人期にいたるそれぞれの段階に応じた発達課題の学習や支援のあり方について、具体例を挙げながら解説してくださいました。また、「相手を“見る”のではなく“観る”」「聞く”ではなく“聴く”」という行為の違いについてもふれ、親と子どもとの間でそういった基本的なコミュニケーションができるようにサポートすることの重要性についても確認することができました。



＜受講者と対話しながら
講義を進める中村氏＞

【午後の部】

午後は、ワールド・カフェという手法で、「地域の人材育成と活用を考える」というテーマについてグループワークを行いました。この手法は、その名のとおり“カフェ”のような雰囲気、少人数に分かれたテーブルごとに自由な対話を行い、他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら



＜お菓子やお茶を片手に
リラックスして話し合いました＞



＜活発な意見交換の場面＞

対話を続け、参加した全員の意見を集めることができる話し合いの形式です。この日、初めて経験したという方も多かったのですが、会場内は終始和やかな雰囲気でした。受講者からは、「活動を広く知ってもらふ必要性・広報の仕方・地域のイベントを活用した人材確保と育成の手法などが参考になった」「“人材がない”と考えるのではなく、少しでも家庭教育支援の活動に参加して頂けるように努力したい」などの感想が寄せられました。

【参加者の声】(抜粋)

- ・中村先生のお話は、実体験をもとにしており、とても聞きやすかった。
- ・事例も交え、時には笑いが出る楽しい講義でした。自身の子育てにもとても参考になりました。
- ・若い方々に今日の講演を聴いてもらえたらよいと思う。機会があれば、講師に来てほしいと考えた。
- ・ワールド・カフェという話し合いの形態を体験できたことが何よりの収穫だった。
- ・ワールド・カフェは初めてでしたが何かの時に真似してみたいです。前回より深く知ることができました。